

市民文芸

短歌

令和七年度第五十四回
阿南市春季短歌大会 選

入選

なにもかも呑み込みさうな大口の虫らしきを描き
二才児帰る 中原きみ子
目を細め歩道の線だけ見て歩く時がひとり進む
郡 雅和
夢にまで見たとう吾のあちら漬け娘は挿り鉢の
ままに食みおり 佐野 幸子
石見銀山町をあげての子育てにいじめなどなく子
ら生き生きと 湯浅 節子
正月もだあれも来ない家なれど仏間の夫に水仙活
ける 野網 恭子
ひとかかえの露をくれたる能登の地震にも津波
にも負けなかつたと 松村三千代
「うん」じゃなく「へっ?」って思わず口に出る
昼はマツクと言う夫に 水口 明美
手際よくみかんを収穫頭上よりトルナトルナと鴉
が叫く 桑原 美枝
音無しの雨降りやまぬ日曜日目覚めのままの気分
でいたい 弘明寺 昭
曾祖母は福神のように笑つてた私も笑おう腹を抱
えて 森岡 政子
日赤の蜂須賀桜のつぼみは固く二月二日の節分迎
ふ 島 ちどり
風に伏す水仙の葉を起こしやる今朝は私の老老介
護 中野 春子
一年半壁に貼られたカレンダー潮の満ち干を釣り
具見ている 東明 貴美

俳句

阿南市俳句連合会 選

京団扇竹しなやかに風やさし
庭に出て幼指さす盆の月
生々しい惨状ポスター原爆忌
夏の雨土にしみこむ早さかな
放浪の画家のちぎり絵遠花火
八月や下駄に不思議な児の視線
秋立つや時計の遅れ直しおり
山河いま朝のかがやき稲の花
老いし身にほつとひと息秋深し
友の手で染め上げられし藍浴衣

川柳

阿南川柳会 選

残された命へ遺影取つておく
予定よりずつと長生きでき嬉し
美人には細かに指導妻は雑
修理費と思つて払う治療代
気に入らぬ部下に雑用ばかり言う
ささやかれ聞き返して野暮な耳
足腰が丈夫なうちと旅に出る
ついポロリ話してしまふ聞き上手

一般応募

老若男女町が一つになる祭り
ムームーが旅の記憶を呼び戻す

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

懷舊中八公路山郭客舎
朝暉忽照際邊天
聳秀雪峰開眼前
旅宿眺望唯驚喜
崢嶸絕景夢相牽
※中パ―中国とパキスタンを結ぶ大陸道路

懷顧九十餘年
九十餘年歲月馳
同窗盡逝偽真疑
爲君擲命當時訓
劫後復興勝汗飢

那賀川初冬
那川水冷人收釣
石瀬魚瘦波逐風
雲際劍山看不見
虛舟寄岸夕陽紅



神原 鹿山
繁木 良子
河内 おと
東明 陽子
横手鉄格子
張本 雅宣
吉崎 晶子
金本ひろみ
近藤ヤス子
柏木 暁代
神野 鈴代
佐藤つたえ
篠原 良子
高木 旬笑
多田紀久代
橋本 征介
若木アヤ子
渡邊ろまん
島尾美津子
武田 敏子

松原 伸夫

市田 嘉則

田中 公